



花いっぱいコンクール

花いっぱい運動推進会  
会員を対象とした講習会

花いっぱい運動推進会会員が管理する市民花壇

## 市民一人ひとりが幸せを実感できる 花と緑のまちづくりを目指して

さいたま市都市局都市計画部みどり推進課

さいたま市は平成28年に誕生から15周年の節目を迎えました。人口は今や128万人を超え、また、本市の交通の利便性の強みを生かし、東日本各地域との連携・交流を進め、「東日本を連結する交流拠点都市」として、さまざまな役割を果たし、貢献していくことが期待されるなど、大きく成長、発展を遂げてまいりました。

市民や事業者の皆様に「幸せを実感していただけるまち」選ばれる都市」を目指すためには、自然環境の保全や自然と共生したまちづくりを行い、日々の生活に潤いと安らぎをもたらすことが必要です。本市では緑の基本計画に定める緑の将来像「いのちきらめき 緑の風そよぐ 庭園都市・さいたま」の実現に向けて、身近な場所で豊かな緑を実感できる環境共生都市の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

緑のまちづくりを推進していくうえで、緑に関する理解を深め、また関心や意識を高めていくことは、大変重要なことです。本市には花と緑のまちづくりを先導する団体の一つに「花いっぱい運動推進会」があり

ます。「花いっぱい運動推進会」は、現在、市内の公園や駅前、道路脇の市民花壇等約220ヶ所の花壇において、春・秋の花の植替え及び、水遣りや枯れた葉・花がら摘み等の花壇の管理を定期的に行っています。

一部の花壇では児童と共に花の植替えを行うなど、花と緑の豊かなまちづくりを地域一体となって推進しています。また、春にはプランターやハンギングバスケットの作品のコンクールを、秋には花の寄せ植え等の講習会を開催するなど、緑化啓発や知識、技術の向上に努めています。約4000名の会員による活動は、街や人々に癒しを与えるだけでなく、地域コミュニティづくりにも大きく貢献しています。

今後も、さいたま市は、花と緑で囲まれたまちづくりを推進しつつ、豊かな環境を未来に引き継ぎ、市民一人ひとりがしあわせを実感できる「絆」であふれるさいたま市、誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市を、市民、事業者や団体の皆様と手を携えて、目指してまいります。





# 地域を、きれいな花でいっぱいに 緑化の意味を噛みしめて

島根県出雲市 FGC 花と緑のクラブ 代表 長永法子



私たちの子供のころは出雲市の大津町にも、お店さんがたくさんありました。近くで、何でも買物ができ、賑やかで活気のある町でした。

私は大阪での仕事を退職しUターンしてくると、大津の町は様変わりしていました。車だけが走り抜けるだけの町に変貌していたのです。人通りもなくなり、話し声もない暗い陰気な町になっていたのです。「淋しいな、何とかしなければ…」との思いから、

いろいろなことを考えるようになりました。ある時、ふるさとの川、斐伊川の土手にすわり街並みを眺めていました。その時、ふと思いついたのです。「そうだ、私は園芸ができる」と。町に花のプランターを置いたら、きっと明るく町の人たちと花を通して話も出来るし交流も生まれるのではないか思えたのです。この考えを実行に移すことにしました。

大阪で暮らしていたころ、園芸教室に通っていました。その時の講師に相談しました。すると講師は「あなたは出雲に帰ったんですから。そのことを大切にすべきです。出雲大社は木造建築だから、プラスチックのプランターではなく手造りの木のプランターを作りなさい」と助言してくれました。

私は寺の娘です。寺によく出入りし手伝ってくれている人に相談してみました。すると、「わしが引き受けた」と言って早速、行動を開始したのです。杉板を探し求め、杉板一枚一枚をバーナーで焼いて、こげ茶色の落ち着いたプランターが完成しました。200個の木のプランターを2ヵ月かけて、しかも材料費だけで作ってくれたのです。感謝しました。とてもありがたく思



植え替えした  
プランターの花に水やり

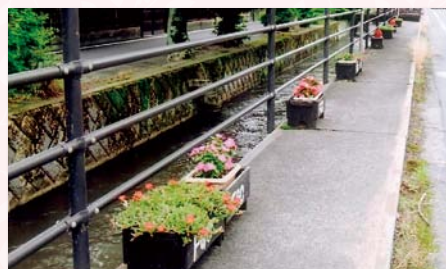


植え替え作業





それからが大変でした。1週間に1回、2人組みで上の町から下の町までの水かけや花がら摘みなどの作業を行いました。また、プランターを置いて頂いた家の人たちと話をし、コミュニケーションも深まりました。毎月1回、運営委員会も行うようになりました。委員会では、良かった点、悪い点などを話し合い改善策を考えました。活動を開始してから13年が経過しています。その間、私たちの活動が認められ平成22年6月22日、岩手県花巻市で開催された全日本花いっぱい大会で表彰されました。私たちF G C花と緑のクラブは、これからも地域の人たちと一緒に交流を深め、地域の活性化のため活動の輪を広げて生きたいと思っています。



いました。その間、檀家の奥さん方にも話をし、協力していただくことになりました。最初は13人でスタートしました。その日は、平成17年6月12日です。その日から本格的な活動が始まりました。街並みの一軒一軒を歩き、プランターを設置することを承諾してもらいました。そして200個の木製プランターが家々の軒下に並びました。

## 上田市 花のおもてなし



上田市は、北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている美ヶ原高原などの2000メートル級の山々に囲まれ、佐久盆地から流れ込む千曲川が市の中央部を東西に通過、これに周囲の山々を源流とする川が合流し、長野盆地へと流れるなど、緑溢れる森林、里山と清らかなる水の流れる川に育

まれた自然豊かな地域です。

昨年はNHK大河ドラマ「真田丸」が放送され、真田一族ゆかりの地として全国から注目を集め、県内外から多くの観光客の皆様にお越しいただきました。

その中で上田市では、上田に訪れていただいた観光客の皆様へ「花のおもてなし」をするきっかけを提供してきました。今回はその一部を紹介いたします。

市の玄関口である上田駅から、真田昌幸によって築城され、第一次、第二次上田合戦で徳川軍を二度にわたり撃退した難攻不落の上田城、上田城跡公園までの沿道の商店街に、真田一族の家紋である「六文銭」をあしらったプランターを設置しました。商店街の皆様には花の植栽、水やりを担当していただき、商店街と共に上田城跡公園へ向かう観光客の皆様へ花のおもてなしをいたしました。

上田城跡公園内では、二酸化窒素、ホルムアルデヒドを吸収する力が高く、環境浄化植物として注目されているサンパチェンスを植栽する上田市後援のイベント「FM長野エバーグリーンキャンペーン」を開催し、約80名の参加者と共にサンパチェンスを植栽することで、上田城跡公園に訪れていただいた観光



客の皆様へ花のおもてなしをいたしました。

「真田丸」は終わってしまいましたが、今回紹介いたしました2つの「花のおもてなし」は今年も続いております。今年もおもてなしの心で全国の皆様のおいでを心よりお待ちしております。



上田城跡公園  
サンパチェンス花壇





## 第57回 全日本花いっぱい松本大会を開催しました。



オープニングアトラクション(松本交響楽団)

平成29年6月17日(土)に松本市で市制施行110周年記念事業として10年ぶりとなる全国大会を開催しました。

まつもと市民芸術館での記念式典には市内外から約1400人の参加がありました。



記念式典の様子



エンディングアトラクション  
(SK松本ジュニア合唱団)



大会旗リレー  
(菅谷松本市市長から平谷尾道市長へ)

大会の最後には、全国よりお集まりの皆さんとの交流レセプションを開催しました。



記念式典の後、あがたの森公園で記念植樹を行いました。

記念植樹をする  
菅谷会長



植樹後記念撮影

多くの皆様のご参加をいただき、誠にありがとうございました。今回の大会のテーマでもある「みんなで育てた花いっぱいの心 発祥の地 松本から未来へ」との、思いを願い、今後も全国の皆さんと「花いっぱい運動」の推進を図ってまいります。



### 事務局だより

有賀正前会長(平成8年度～25年度)が4月22日にご逝去されました。  
花いっぱい運動へのご尽力に感謝を申し上げますと共にご冥福をお祈りいたします。

#### 第42号

発行日

平成29年8月  
全日本花いっぱい連盟事務局  
長野県松本市中央1-18-11  
Mウイング2F

TEL 0263-332165  
FAX 0263-332165